

東京都健康推進プラン21(第二次)中間評価の概要【案】

東京都健康推進プラン21(第二次)について、今後の健康づくりの推進体制の充実強化を図るため、これまでの施策や目標の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、中間評価と必要な見直しを行います。

指標評価の状況

総合目標		平成22年	平成28年	評価
健康寿命の延伸 (65歳健康寿命の延伸)	男性	82.02歳	82.62歳	A
	女性	85.14歳	85.69歳	
健康格差の縮小 (区市町村別65歳健康寿命の最大値と最小値の差の縮小)	男性	2.51年	2.47年	B
	女性	1.98年	2.05年	

※ 総合目標の評価:「A(改善)」「B(不変)」「C(悪化)」の3段階評価

	14の分野	主な分野別指標の達成状況	評価
【領域1】 主な生活習慣病の発症予防と重症化予防	がん	がんによる75歳未満年齢調整死亡率は減少	a
	糖尿病・メタボリックシンドローム	糖尿病性腎症による新規透析導入率は減少	a
		糖尿病網膜症による失明発症率は減少	a
	循環器疾患	脳血管疾患の年齢調整死亡率は、男女とも減少	a
		虚血性心疾患の年齢調整死亡率は、男女とも減少	a
	COPD	COPDの認知度は、男女とも上昇	a
【領域2】 生活習慣の改善	栄養・食生活	野菜の摂取量350g/日以上の人割合は、男女とも増加	a
		脂肪エネルギー比率が適正範囲内にある人の割合は、男女とも減少	c
	身体活動・運動	歩数が8,000歩/日以上の人(20~64歳)の割合は、男女とも減少	c
		歩数が8,000歩/日以上の人(65~74歳)の割合は、男女とも増加	a
	休養	睡眠時間が十分、あるいはほぼ足りている人の割合は減少	c
		眠れないことがまったくない、あるいはめったにない人の割合は減少	c
	飲酒	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している男性の割合は横ばい	b
		生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している女性の割合は増加	c
	喫煙	成人の喫煙率は、男女とも減少	a
	歯・口腔の健康	歯・口の状態についてほぼ満足している人の割合は減少	c
【領域3】 ライフステージを通じた健康づくりと健康を支える社会環境の整備	こころの健康	支援が必要な程度の心理的苦痛を感じている者の割合は横ばい	b
	次世代の健康	60分/日以上運動をする児童・生徒の割合は、男女とも横ばい	b
	高齢者の健康	地域の活動団体数は増加、高齢者人口当たりの団体数は減少	b
	社会環境整備	地域の活動団体数は増加、総人口当たりの団体数も増加	a

※ 分野別指標の評価:「a(改善)」「b(不変)」「c(悪化)」「- (評価困難)」の4段階評価

課題と今後の取組方針

【課題①】生活習慣の改善に向けた意識変容、行動変容

【取組方針】都民のヘルスリテラシー(健康情報の収集・理解・活用能力)の向上を支援

- エビデンスに基づく望ましい生活習慣等について、様々な手法を活用して広く普及啓発を図り、個人の健康意識を喚起
- 誰もが日常的に負担感なく取り組める健康づくりの工夫を紹介・啓発し、生活習慣改善の実践のための環境づくり
- 保健医療分野のみならず、教育や産業など様々な分野とも連携・協働し、多方面から都民の主体的な健康づくりを支援

【課題②】世代や性別ごとに異なる指標の達成状況

【取組方針】ライフステージやターゲット(対象)の特性に応じた施策の展開

- 各年代や性別における生活・労働環境等の特性を踏まえた望ましい生活習慣の重要性を普及啓発し、効果的な取組を推進
- 職域との連携を強化し、目立った改善が見られなかった働く世代を中心に生活習慣の改善を促進

【課題③】生涯を通じて切れ目なく健康づくりに取り組むことができる社会環境

【取組方針】都民一人ひとりの健康づくりを支える環境の整備

- 先進的な取組事例や健康課題等の共有・活用を図り、地域の実情に応じた効果的な事業を展開
- 各推進主体の地域内での相互連携を支援し、地域の特性を活かした健康づくりができる環境を整備
- 地域や職域における健康づくりの指導的役割を担う人材の育成により、多様な主体の自主的な取組を推進